

✿開幕迫る！

この秋、島根県立石見美術館では、特別展「益田氏 VS 吉見氏」が開催されます。

この特別展では、室町時代から安土桃山時代にかけて、益田を治めた益田氏と、鹿足郡を治めた吉見氏について、その歴史と文化を振り返ります。

益田氏と吉見氏はライバル関係にありました。特別展では、その歴史を大きく3つの視点から紹介することとしており、この特集ではこれを簡単に紹介します。

より詳しく知りたい方は、『広報ますだ』の平成31年4月号から『中世益田講座「益田氏 VS 吉見氏」』を連載していますので、そちらもあわせてご参考ください。

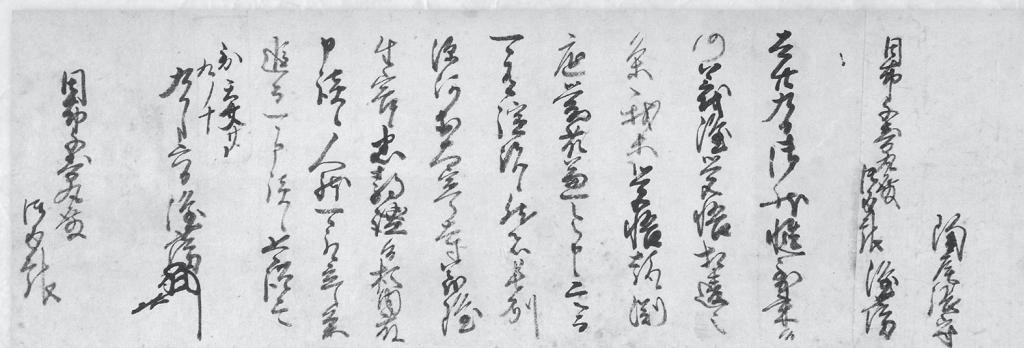
## 視点1 長い長い対立の歴史

益田氏と吉見氏は、室町時代初め頃から戦国時代後半に至るまで、約200年間にわたって対立関係になりました。両氏の陰悪さには、中央政

權である室町幕府や山口の大名大内氏も、その対応に頭を悩ませました。

さらに両氏の対立は、応仁・文明の乱、陶晴賢の下剋上、大内氏の滅亡、戦国大名毛利氏の霸權確立という、中國地方西部の大きな歴史的画期にも大きく影響を与えました。

益田氏と吉見氏の対立の歴史、中国地方西部の歴史に与えた影響、そして、両氏の狭間にあって必死に生き抜こうとしていた人々の歴史を、古文書や地域に残る文化財から紹介します。



たかふさ 陶隆房(晴賢)書状 (益田市所蔵周布家文書、益田市立雪舟の郷記念館蔵)

陶晴賢の下剋上に、益田藤兼が積極的に協力していたことを示す古文書。この後、益田氏・陶氏連合軍は吉見氏に大規模な攻勢をしかける。

## 特別展「益田氏 VS 吉見氏 ー 石見の戦国時代 ー 」

会期：9月5日(木)～11月4日(月・振) ※毎週火曜日、10月23日(水)休館(10月22日は開館)  
10:00～18:30(入場は18:00まで)

会場：島根県立石見美術館 展示室A

主催：益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会

(島根県立石見美術館、公益財団法人しまね文化振興財団、益田市、益田市教育委員会、益田「中世の食」再現プロジェクト、益田商工会議所、一般社団法人益田市観光協会)

協力：東京大学史料編纂所、公益財団法人古代学協会、国立歴史民俗博物館、島根県教育委員会

## 視点2 高い文化性

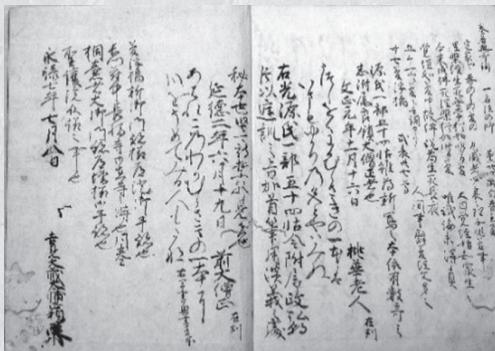
益田氏と吉見氏は、政治的、軍事的にライバル関係にあつただけではなく、文化的にもライバル関係にありました。

益田氏と言えば、雪舟を招いて益田兼堯像を描かせたほか、萬福寺と医光寺に庭園を築かせ、益田に室町文化を花開かせました。これ以外にも、萬福寺の本堂や染羽天石勝神社の本殿、仏画や仏像にも優れた遺産が伝わります。

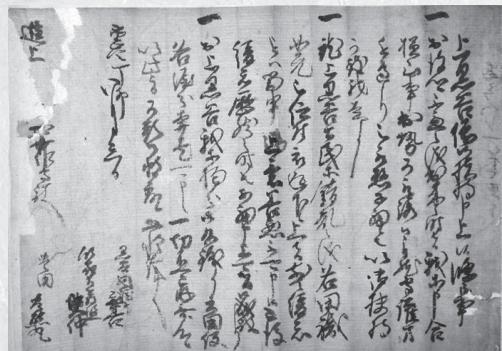
吉見氏も負けてはいません。鷲原八幡宮の本殿などの建造物、鷲舞や流鏑馬といった中世以来の文化が津和野には色濃く残ります。

さらに、戦国時代の吉見正頼は、自ら研いだという刀・吉見左文字や、作成した琵琶が現存しているほか、源氏物語の最善本とされる大島本源氏物語を一時所蔵しており、いくつかの源氏物語を比較していた可能性も指摘されています。

かたや雪舟と親しく交わり、その傑作を多数残した益田氏、かたや自ら様々な文化遺産を作成し、源氏物語の最善本を伝えた吉見氏。彼らによつて当時の石見は全国屈指の文化水準にあつたと言えます。



重要文化財 大島本源氏物語  
(古代学協会所蔵、京都府京都文化博物館寄託)  
「夢浮橋」の奥書。永禄7年(1564)年に「桐壺」と「夢浮橋」の二巻を聖護院門跡に書写してもらったと吉見正頼が記しています。



重要文化財 豊田豊熊丸外二名連署言上状案  
(毛利博物館所蔵文書)

益田氏と吉見氏の対立の激しかった上黒谷で、地域の中小規模の領主が、危機の際には横山城に駆けつけると誓った文書。

## 視点3 文易への熱い関心

益田氏と吉見氏は、日本海を越えた先にある遠い地域との交易への関心でもライバル関係がありました。益田氏は、朝鮮半島の虎皮や蝦夷地(北海道)産の昆布・数の子を入手していたことなどが古文書から明らかになつており、交易により経済力が蓄えられたとして「海洋領主的性格」が指摘され、さらに、中須東原遺跡などの発掘により、考古学的にも裏付けられました。

吉見氏も負けておらず、琉球や朝鮮半島との交易上、重要な領主たちと提携関係を結び、益田氏と戦つて良港の多い長門国阿武郡(山口県北部)沿岸部を奪取しています。



華南三彩貼花文五耳壺  
(萬福寺所蔵)

益田氏が寄進したと伝わる。益田氏の南蛮貿易の可能性を示唆する。



島根県指定文化財 陶製経筒  
(豊田神社所蔵、島根県立古代出雲歴史博物館寄託)

豊田神社の奥の院石塔寺現から出土。高津川・匹見川が合流する豊田(横田町・神田町)の重要性を物語る。

# 吉見氏

## 関連イベント等

### ♦「よみがえる戦国の宴 其之五」

日時 9月14日(土) 13:00  
会場 グラントワ 多目的ギャラリー

じめとして、益田の歴史文化に関する各種イベントが予定されています。

内容も、歴史を楽しむものから、よ

り深く研究するものまで、また、全国的な学会や山口県萩市須佐との連携事業などさまざまです。

※各イベントの紹介の中で、主催者の記載がないものは、益田の歴史文化

を活かした観光拠点づくり実行委員会が主催するものです。

### ♦開会式

日時 9月5日(木) 9:30

会場 島根県立石見美術館ロビー

※申込みが必要です。

### ♦特別講座「益田氏 VS 吉見氏」

日時 9月4日(水) 3:500円(料理・お酒付)

※コレクション展観覧券またはミュージアムパスポートが必要です。  
チケット販売・グラントワ総合案内カウント台(☎31・1871)

益田藤兼・元祥が毛利元就をもてなした「祝い膳」を再現した料理と、琵琶の演奏を味わう催しです。

申込先 市文化財課

☎31・0623  
FAX 24・1380

9月4日(水)までに電話またはFAXで左記まで申込みください。

特別展の開会式を開催します。セレモニーの後、展示解説を行いますので、コレクション展観覧券またはミュージアムパスポートが必要です。

特別展の前提となつた東京大学史料編纂所一般共同研究「中世石見国高津川流域の史料調査と研究」の成果を詳しくお話しします。

### ♦ギャラリートーク

日時 9月22日(日)、10月19日(土)

11月4日(月・振)

各日とも 14:00

会場 グラントワ 展示室A

※各日とも 7:00 集合

会場 グラントワ 展示室A

定員 なし(申込不要/聴講無料)

※コレクション展観覧券またはミュージアムパスポートが必要です。

定員 初級者コース 27人(要申込み)

外にも展示解説を受付けますので、グラントワまたは文化財課に申込みください。なお、日程によってはお受け

できない場合もあります。

定員 初級者コース 27人(要申込み)

上級者コース 19人(要申込み)

参加料 4,000円(昼食別)

申込先 石西の文化を学ぶれんげ草の会

☎090・3176・5904

FAX 22・6927

✉pastel@maro-v.jp

※申込みの際に、氏名、住所、電話番号(当日連絡がつくもの)、集合場所をお知らせください。

主催 石西の文化を学ぶれんげ草の会

吉見氏に関する史跡、神社、仏閣を中心回るバスツアーです。益田市職員および津和野町職員が解説します。

### ♦まわって集めよう! 益田氏・吉見氏の武将カード

期間 9月5日(木)~11月30日(土)

場所 島根県立石見美術館、萬福寺、

医光寺、益田市立雪舟の郷記念館、萩市須佐歴史民俗資料館、

永明寺(津和野町)

※施設により配布期間が異なります。

### ♦特別展関連バスツアー

日時 初級者コース 9月8日(日)

上級者コース 10月13日(日)

※各日とも 7:00 集合

会場 益田市内、津和野町内を回ります。

場所 益田駅

定員 初級者コース 27人(要申込み)

上級者コース 19人(要申込み)

参加料 4,000円(昼食別)

申込先 石西の文化を学ぶれんげ草の会

☎090・3176・5904

FAX 22・6927

✉pastel@maro-v.jp

※申込みの際に、氏名、住所、電話番号(当日連絡がつくもの)、集合場所をお知らせください。

主催 石西の文化を学ぶれんげ草の会

吉見氏に関する史跡、神社、仏閣を中心回るバスツアーです。益田市職員および津和野町職員が解説します。



吉見正頼のイラスト

©益田市、illust乃希

